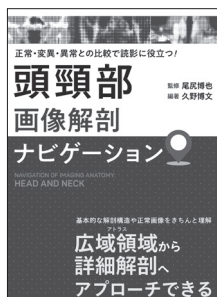




正常・変異・異常との比較で読影に役立つ！ 頭頸部画像解剖ナビゲーション



監修：尾尻博也
編著：久野博文

発行：学研メディカル秀潤社

2021年9月刊行
B5判・352ページ
定価：9,900円（10%税込）

診断ノイズ低減のための画像解剖学

診断あるところにノイズ(標準偏差)あり。診断医間の厳密さの違いによる“水準ノイズ”や、個人の中でも特定の所見を好む“様式ノイズ”といった系統的ノイズの他に、場所や時間の違いによる読影環境の気分という“機会ノイズ”も加わる。問題なのは、異なるノイズは正負でほど良く相殺されるわけではなく、分散が加法される点にある。つまり、診断のブレは大きくなる一方なのである。また、病因や予後を予測する上で無知が影響する。その客観的無知には、診断医の不十分な知識によるものと、原理的に知りえない情報とに分けられる。診断におけるノイズやバイアスをどうしたら減らせるのか？それを求めて読者は、画像診断の書籍をひもとく。診断のノイズを減らすことは、これらの要素のうち系統的ノイズや、知らないだけの不完全な情報をいかに減らすかにかかっている。そのための解決策として、社会科

学で一般的にはガイドラインの導入が非常に大きな羅針盤となることが知られている。

ひるがえって、本題の『頭頸部画像解剖ナビゲーション』はどうだろうか？本書の特徴としては、①検索のしやすさ、②読みやすさに、最大限注力されているのがわかる。何と云っても、求めている画像解剖にアクセスしやすい。大まかな場所や構造から段々とクローズアップして局所解剖に迫れるし、もちろん学術用語からも検索できる。求めている情報に複数のアプローチで到達できる冗長性は、読者にとって非常に便利である。何らかの取っ掛かりさえあれば、たどり着ける確率が高まるからである。多数の著者にもかかわらず記述形式が統一されていることも、検索しやすさに一役かっている。これは、読者にとって地味に大切な点であり、編者の努力の賜物であろう。また、読みやすいレイアウトや適切な模式図といったビジュアルでの眼の負担軽減ばかりでなく、正常・変異や異常との具体的比較、臨床的意義や、ちょっとした豆知識も随所にちりばめられており、読み物としても工夫されている。単なるアトラスではなく、いろいろ発見できる、読んで楽しい書籍なのである。

何の話をしていたのかというと、「診断ノイズを如何に減らすか？」についてでした。そのためには、一定の標準的手続きが大事であるという話をしました。頭頸部疾患の読影をするに当たり、画像解剖へのスタンダードなアプローチとして、本書は絶賛お勧めです！

自治医科大学放射線医学講座
森 壱

